

製品名: HMG-I/HMG-Y ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12118**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	HMGA1 HMG1Y
別名	High mobility group protein HMG-I/HMG-Y (HMG-I(Y));High mobility group AT-hook protein 1;High mobility group protein A1;High mobility group protein R)
遺伝子 ID	3159.0
SwissProt ID	P17096
免疫原	ヒト HMG-I/HMG-Y 由来の合成ペプチド。AA20-60

背景

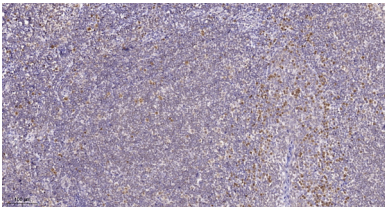
この遺伝子は、遺伝子転写の調節、レトロウイルスの染色体への組み込み、および癌細胞の転移進行に関与するクロマチン関連タン

パク質をコードしています。コードされているタンパク質は、二本鎖 DNA の AT に富む領域の副溝に優先的に結合します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみつかっています。この遺伝子の擬似遺伝子は、複数の染色体上で同定されています。[RefSeq 提供、2016 年 1 月]、疾患：肺軟骨性過誤腫において、HMGA1 に関連する染色体異常が認められます。RAD51L1 との転座 t(6;14)(p21;q23-24)。機能：HMG-I/Y は、二本鎖 DNA の A+T に富む領域の副溝に優先的に結合します。これらのタンパク質は、ヌクレオソームの位相調整および mRNA 転写物の 3' 末端処理において機能する可能性があることが示唆されています。これらはまた、A+T に富む領域を含む、またはそれに近接する遺伝子の転写制御にも関与している。質量分析:1つのアセチル基と2つのリン酸基を持つ PubMed:15302935,質量分析:1つのアセチル基と3つのリン酸基を持つ PubMed:15302935,質量分析:1つのアセチル基、1つのメチル基、2つのリン酸基を持つ PubMed:15302935,質量分析:1つのアセチル基、1つのメチル基、3つのリン酸基を持つ PubMed:15302935,質量分析:1つのアセチル基、2つのメチル基、2つのリン酸基を持つ PubMed:15302935,PTM:構成的に2~3箇所までリン酸化されている。DNA 損傷時にリン酸化されるが、これはおそらく ATM または ATR によるものと考えられる。アポトーシスの初期段階で過剰リン酸化され、続いて脱リン酸化とメチル化が起こり、クロマチン凝縮と一致する。アイソフォーム HMG-Y は HIPK2 によってリン酸化される。PTM:HMG-Y はメチル化されていない。PTM:Arg-58 のメチル化は Arg-60 のメチル化と相互に排他的である。類似性:HMGA ファミリーに属する。類似性:3つの AT フック DNA 結合ドメインを含む。サブユニット:HIPK2 と相互作用する (類似性による)。HIV-1 プレインテグレーション複合体と相互作用する。、

研究分野

微生物学

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。